

## 高齢者トラブルと心理臨床

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 公開日: 2021-03-19 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 辻, 恵介 メールアドレス: 所属:
URL	<a href="https://mu.repo.nii.ac.jp/records/1427">https://mu.repo.nii.ac.jp/records/1427</a>

## ■エッセイ

## 高齢者トラブルと心理臨床

---

辻 恵介

武蔵野大学人間科学部

高齢化社会の影響もあるのだろう、高齢者の心理についての解説を求められることがある。ただ、じつは、臨床心理学や精神医学の分野で、高齢者の心理を真正面から取り上げた論考は意外に少ない。生老病死の四苦のひとつに挙げられ、誰もが避けられぬ主題ではあるのだが、老いることで衰え、諸々を失っていくことから連想されるある種の貧困さが、学究の関心を惹きにくいのかも知れない。実際、精神病理学にせよ精神分析学にせよ、多くの先達を取り上げたのは、内省力や知的能力に恵まれた事例に偏っているし、自らの内面を言語化することが困難な事例についての記述の蓄積は、かなり乏しいと言わざるを得ない。

言語化能力に劣る最右翼は精神遅滞者だろう。精神遅滞に関するもっとも優れた精神病理学的論考を挙げよと言われれば、筆者なら Schneider, K. の *Klinische Psychopathologie* を押すだろうし、この選択にご賛同いただける向きも多いのではないかと思うが、前世紀の半ばに上梓された著作を超える記述が未だになされていないと聞けば、泉下の大家も苦笑するだろう。まして、この書籍の中でも精神遅滞に関する章には、ごくわずかな紙幅しか割かれていないのである。

記述の蓄積の乏しさという点では、高齢者の心理についても同様で、彼らが語る内的世界は、われわれの興味を惹きにくいのかも知れない。高齢者の心理を説くという体裁をとりつつ、認知症の症状や予防についての解説に終始する論考も、巷には多々見られる。筆者の専門の犯罪領域でも、高齢者の犯罪と言えはすぐに認知症の専門家を引っ張り出そうとする法曹もいて、頭を抱えることがある。もちろん、認知症は心理臨床にとっても重要な主題だが、視野を広げて、老いること自体の心理がもっと考察されるべきだろう。

そんなことを考えていても、いざ自分に解説のお鉢が廻ってくると、さてどうしたものかと悩むことになる。ときおり高齢者の犯罪が世間の耳目を集めることがあり、犯罪絡みの論評の依頼であれば嫌も応もないのだが、そういうときは、日ごろからもっと高齢者の心理について考えておけばよかったと後悔してしまう。以下に挙げるのは、高齢者向けの雑誌（『エール』2017年秋号）で、「シニア事件簿～あなたは大丈夫？」という特集が組まれたときのインタビュー記事に加筆修正を加えたものである。読者も高齢者だろうから、あまり希望がないことばかり言う訳にもいかないよなど、ちょっと気を遣いつつ話した記憶がある。一般向けのインタビューでこんな話をしましたと公開するのは気恥ずかしくもあるが、エッセイとしてご笑覧いただければ幸いである。

\* \* \*

## ○ 年を取ると性格が尖鋭化する

年齢と共にさまざまな能力が落ち、その分、自分と異なる考えを受け入れにくくなるので、高齢期にはキレやすくなります。いきなりキレて行動に移してしまい問題になることもあります。前兆なしになにかやってしまうのは、高齢者の特徴とも言えます。本当は小さなサインを出しているのですが、現代は周りとの繋がりが乏しく、そうした小さな前兆に気付いてもらうことができません。

われわれは、なぜ年を取るとキレやすくなるのでしょうか。高齢になると、以前できていたことができなくなり、いろいろなものを失うこととなります。この変化に慣れるのはなかなか難しく、今まであったものを失うことで不安になり自信をなくすと、こころに余裕がなくなりキレやすくなります。また、性格の尖鋭化にも目を向ける必要があります。若いころから気性の激しかった人が、年を取って一層激しくなるような場合ですね。誰でも年を取れば、多かれ少なかれ、性格のよい面も悪い面も強く出るようになります。

もちろん、それとは逆に、年を取って丸くなる場合もあります。ものごとにこだわる気力が萎えて、よい意味で手抜きができるようになるのは、年を取ることの強みかも知れません。ということは、考え方を変えれば、年を取って性格が尖鋭化する人は、まだ気力が衰えていないのかも知れませんね。

周囲に関心が持てなくなり、自分のことしか考えられなくなって、周りに迷惑を掛けてしまうこともあります。自分は正しい、周りがおかしい、という思いに固執するのはトラブルの元です。人に注意されたときに、自分の誤りを認められずムキになると、確なことはありませんね。トラブルには、甘える気持ちも絡んでいるかも知れません——年を取っているのだからこれぐらいは許容してくれてもいいじゃないか、今まで頑張ってきたんだからそのぐらいの権利はあるだろう——。本来、多少甘え合うのは、人間関係の潤滑油でもあります（もちろん甘え過ぎはいけませんし、自分だけでなく相手の甘えも許容する必要がありますが）。しかし、最近では、いろいろな場面で、ものごとへの許容範囲が狭くなり、昔ならお互い様ということで許し合っていたことも、受け入れられなくなっています。

## ○ 家を管理する能力の減少がゴミ屋敷につながる

世の中が複雑化し、当たり前で生きるのが難しくなってきました。よい例がゴミ屋敷です。昔は集めるほどものがなく、家財と言っても鍋と茶碗と蒲団くらいだったのが、今は生活で使うものが増え、管理しきれなくなっています。例えば、冷蔵庫を溢れさせる高齢者は少なくありませんが、その方が若いころは、冷蔵庫が普及していなかった訳で、食材を腐らせずに済む冷蔵庫が出てくれば、何でも仕舞い込みたくなるのは人情としてわかります。ただ、冷蔵庫を溢れさせるのは、ゴミ屋敷に近づく危険信号かも知れません。

高齢者には、「もったいない」という感覚が身に沁みついています。まだ使えるものをゴミとして出すなど、とんでもなく罰当たりなことに思えます。もちろん、この感覚は美德ですが、家族からすると、冷蔵庫に溜め込んだものを始末するのは非常に負担です。認知症の姉が溜め込む無駄な食材を、来る日も来る日も泣きながら分別して始末していた弟が、ある日ついに思い余って姉を殺害してしまった事件もありました。

ゴミ屋敷は、認知症やアルコール依存、発達障害などの病気が原因の場合もありますが、もとの性格や、加齢の影響、社会状況の変化など、いくつもの原因が重なっていることもあります。何が原因であれ、いったんゴミ屋敷になると、周囲や役場が介入して片付けても、少しすると元の本阿弥になってしまうことが少なくありません。ゴミ屋敷の主にすれば、自分の家のことだから、どうしようが構わないではないかという気持ちもあるようです。自分の領域への権利意識という点から見れば、道に張り出した庭木の枝を切ってくれと言われても切りたがらず、ご近所とのトラブルに発展する人の心理にも通じそうですね。

## ○ トラブルの予防は関わる人を増やすこと

高齢者によるトラブルに対処するには、関わる人の数を増やすことです。役場や警察など、どこか一か所が対応するのではなく、近所の人を含めたいろいろな人が関わり、連絡を取りあうことが大切です。今は地域の繋がりを嫌う世の中になっていますが、繋がらないと暮らせないという現実を目を向けましょう。地域のトラブルの中には、役場などの公的な機関の介入が必要なものも多いかも知れませんが、トラブルの原因になった人を孤立させず、地域で受け入れることは、解決に近づくための一歩になり得ます。もちろん、実際にどの程度受け入れられるか、難しい問題ではあります。

一戸建ての家を維持すること——きちんと掃除をして、壊れたところは修繕し、近所付き合いをして、決められたゴミの出し方を守ること——は結構大変で、これができない人は年齢に関係なくたくさんいます。一戸建ての家を持つことが理想のように言われがちですが、現実には、一戸建ての家を管理するだけの能力がない人も少なからずいて、その人たちの手にした家が、後年、ゴミ屋敷になる場合もあるでしょう。

われわれは、嫁姑問題を始めとして、家族との関りを煩わしく思い、それを避けて暮らせるように核家族を志向してきましたが、厳密に自分達だけで生活できる人は、社会の中にほんの少ししかいません。大抵の人は、鬱陶しいと思っても、大勢の人とつながらなければ暮らしていけないのです。隣人との関係もそうで、人里離れて暮らしているのではない限り、多かれ少なかれ隣人の存在はついて回ります。その隣人との間でトラブルが生じることも少なくありません。トラブルの芽が出る前に、またはせめてトラブルになりかけたときに、一声掛け合えるような関係を作っておくことが大切です。

ゴミ屋敷に限らず、今までできたことができなくなってくるのがトラブルの予兆になることも少なくありませんが、そうしたちょっとした変化に気付き合えるような関係を作っておけるとよいですね。これはなにも、近所の人によるトラブルを防ぐだけではありません。われわれ自身がトラブルの発端になりそうな場合も、話がこじれる前に一声掛けてもらえれば、大事にならずに済むでしょう。

## ○ 「こんにちは」の挨拶だけでも有効

とは言っても、自分に余力がないと、ご近所と仲良くするのが負担になることもあります。定年後の地域デビューも、10年くらい準備期間がないとうまくいかないと言われています。でも、難しく考えなくてもよいのかも知れません。初めは「こんにちは」と挨拶し合うだけでもよいの

です。気軽に挨拶ができる関係でいるのは大切なことです。問題を共有できれば、すぐに解決できなくても、心理的に追い詰められにくくなります。焦らず一步一步いきましょう。

取材をしてくださった『エール』の植松紀子編集長に感謝します。